



鈴木多津枝議員

問

1.近隣に遅れた医療費補助拡充を  
2.後期高齢者医療の影響は？  
3.元気が出るお茶と観光の町に

**質問** 子育て支援の拡充を。

子育て支援の拡充、利用料はおやつ代で1日200円。来年度本格実施に。⑤現在、桜保育園1カ所で職員2名で運営。21年度は利便性を考え休園中の藤川保育園で開設検討している。⑥6千万円削減。子どもの目線での統合、子育て力後退はない。延長・休日保育にも応えた。一方、国は育児不安や虐待の増加に対し保育所や保育士の役割を重視する保育指針を示した。当町も保育内容の充実、保育士の専門性を高めていく。

**質問** 年を取っても安心の町づくりを。

①見守りネットワークの拡充を。②大井川鉄道と交渉して交通弱者割引券を。③廃止を求め声絶えない後期高齢者医療制度の影響は？

**質問** 元気が出るお茶と観光の町づくりを。

①一番茶の生産・販売状況は？②荒廃・放棄茶園の転作、産直・販売支援を。③有機無農薬の茶業・農業支援で町の特色を。

①総合計画の人口目標達成する取り組みは？②近隣に遅れた乳幼児医療費補助は694名の署名と請願に応え、ほとんどの自治体が廃止した所得制限をやめて中学卒業へ引き上げを。③国の補助拡大で支出が減る分補助拡大を。④放課後児童クラブは。⑤子育て支援センターの拡充を。⑥6園を2園にした削減額、後退した地域の子育て力補強、地区要望への対応は？

**町長** ①色々な方の協力で安心して住み続けられる地域づくりを進めている。緊急時に地域の力をどう生かすか検討を進める。②町全域の交通を協議検討する法定協議会設置を検討している。住民、利用者も参画しよりよい選択をした。③被保険者は2千120人。内、保険料軽減者が61%。10月から保険料負担の被扶養者は333人で、来年3月まで均等割の1割、21年度は5割負担となる。軽減ない方に負担増があるが、軽減がある低所得者・世帯では大変軽くなる。国保会計も若干負担減る。

**町長** ①共同茶工場荒茶生産で27万6千500kg。厳しい状況下、具体的把握のため農家アンケートを実施中。②具体的な支援で活力ある農業振興の町づくりを進める。③県の基準に従い安心安全な銘茶産地を進めている。有機・無農薬茶栽培認証を得た方もある。県が

**町長** ①地名の若者定住で38人確保。内6人出生。今年度も4戸建設。古い町営住宅の建設も。同時に住みたくなる施策も取り組み進める。②県内で特に遅れていない。所得制限は必要。現状維持でいく。③他に回して使う。④10月より中央小で試行開始。休日以外の下校時、午後6時、職



親子なかよし広場



品評会茶摘み

答

1.県内でみれば特に遅れていない  
2.低所得者の保険料は大変軽くなる  
3.安心安全な銘茶産地進める